



日本聖書神学校 学報

Japan Biblical Theological Seminary

〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-14-16 ・ ☎ 03-3951-1101 ~ 2 ・ Email: jbts@jbts.ac.jp

2021年9月10日

第167号

発行人 神保望

【後援会献金口座】

郵便振替:

00110-3-6435

加入者名:

学校法人聖経学園

日本聖書神学校

今号の内容

巻頭言	1
卒業生研修会	2
日本聖書神学校創立75周年	2
決算報告	3
学事報告・個人消息	4

【巻頭言】

掘り起こす人



教授 荒瀬牧彦

辺野古の美しい海を埋め立てて米軍新基地を作るといふ国家の蛮行が続いています。先日は、埋め立て予定地のサンゴ移植許可を沖縄県が撤回したことに対して、国が行政不服審査法を使って県の処分を停止するという倒錯した行為も起こりました。この国の政治と行政は、自然環境を守ることなど眼中にないのです。

自然の尊厳を踏みにじるだけではありません。この国は人間の尊厳を踏みにじり、そして戦争死者の尊厳をも奪おうとしています。軟弱地盤に難渋した国は工事の設計変更を行い、埋め立て用土砂を本島南部から採取すると言っています。これに強く抗議し、ハンガーストライキを行ったのが、沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表の具志堅隆松さんでした。もう40年近く、沖縄戦死者の遺骨を収集し、身元を特定して遺族に返すため、できる限りの努力を積み重ねてこられた方です。我々は普通、何かの事件の現場で遺体が埋もれている事がわかっているのに、その土砂を工事に使うなどは考えません。それを国家が行うというのです。「戦争で殺された人の血を吸い込んだ岩を次の戦争に使うのは戦死者に対する冒とく」という抗議に、誰が反論できるでしょうか。

具志堅さんの著書『ぼくが遺骨を掘る人「ガマフヤー」になったわけ』を取り寄せて読み、強い感銘を受けました。遺骨は今も語っている、だからそれを尊重し、そこから学ぶべきだと彼は語ります。沖縄戦体験者が次第にいなくなる中、この先戦争の真実を語るのには、命を絶たれた一人ひとりの骨と遺品であるという信念の下、ガマフヤーの方々には驚くほど丁寧で細かい発掘作業をし、現場を再現します。骨の微細な情報、持ち物と出土場所からの情報を丹念に集めて人物像を浮かび上がらせるのです。人間の尊厳を守るための情熱がボランティアの方々を動かしています。

著書に掲載された生々しい発掘現場の写真の中に、具志堅さん自身が遺骨の体勢を取って横たわっているものがありました。その人の身になって、どのような

最期であったのかを思いめぐらしているのです。土の中に埋められた一人ひとりへの深い敬意に感銘を受けます。そして同時に、その姿勢から一人の説教者としての自分が揺さぶられるのを感じました。

説教者の作業には、土を丁寧に取り除き、ガマの中に眠る人を発見し、時にはその体勢を取って思いめぐらす、という次元が確かに含まれるのではないのでしょうか。今なお何かを語っている声を聞き取るために最大限の努力を費やすことを求められているのではないのでしょうか。

創世記の記事を想起します。弟の祝福を妬み、弟を殺して土に埋めたカインに主は言われました。「お前の弟の血が土の中からわたしに向かって叫んでいる」と。アベルの姿は見えなくなりました。しかし、その声はなお響いているのです。神はその声を確かに聴いておられます。説教者もその声を聴き、そして語らなくてはなりません。カインにもその声が届くようになるため、そしてアベルの尊厳が回復されるためです。

聖書には、声なき者の声を聴き取ろうとする姿が様々な仕方で描かれています。追いはぎに襲われて倒れている人を見た時、祭司とレビ人は道の向こう側を通っていききましたが、旅のサマリア人はその人に近寄り、その姿をよく見て、言葉にならない声を聴き取りました。そして、必要な手当てをしたのです。38年間ベトザタの回廊に虚しく身を横たえていた病気の人に目をとめたイエスは、「良くなりたいか」と語りかけました。そして、彼の叫びを引き出し、それに応えたのです。これらの姿を通して私たちは、神が声なき者の声を聴き取り、奪われているその者の尊厳を取り戻すことを願っておられる神である、ということを知られます。神がそういう御方なので、説教者はその神の業に仕えることをすべきではないか。説教者は労を厭わず、歴史の土を掘り起こし、そこに埋もれている声を聴き取る者、そして、目の前の現実の中に埋められている人の声を掘り起こす者ではないか。大きなチャレンジが与えられています。

「教会」への問いー「筑豊でイエスと出会うーその1」



2021年の卒業生研修会は、「地域に根差す教会」のテーマのもとZoomを使用してのリモート開催となりました。その中で、来年の北九州地域での実施の準備として「筑豊でイエスと出会うーその1」と題して犬養光博氏の主題講演が行われました。

犬養先生の筑豊との出会いは同志社大学の神学生であった1961年の夏、筑豊の子どもを守る会キャラバンに参加した時のことでした。その後大学を一年間休学して福吉の公民館に住み込んで閉山炭住に住まう子どもたちに関わるようになります。初めて筑豊に向かった時の経験を、犬養先生は次のように語られました。「僕の筑豊のイメージは写真家の土門拳さんや上野英心先生のご著書『追われゆく坑夫たち』(岩波新書)などからのイメージでしたが、電車で降り立った直方の街は賑わっていて何ら関西の町並みと変わるところがなかったんです。でも、バスに乗って福吉に近づいていくと、それはもうそのまま、いわゆる筑豊の風景がそこにはあったんです」犬養先生は、その福吉で生きる事になります。その生活のスタートにおいて犬養先生に大きな影響を与えたのは、知人が聞いていた高橋三郎先生の聖書講義テープであっ

たと言います。「こういう言い方をしているのかわかりませんが、高橋先生のルカ伝講義を聴く中で『みことばの権威』というものを初めて知った思いが致しました。そして、この『みことばの権威』ということが、それから先の福吉でのわたしの一つの原点になるのです」と犬養先生は振り返ります。

大学院を修了した1965年犬養先生は福吉に赴き福吉伝道所を開設、以後近隣90戸の住宅に毎月『月刊福吉』という文書を配り始めます。「教会にはキリストがいる。教会にいるイエス様に会えば、この暗い谷に住む人も救われる、わたしは本気でそのように信じてこの働きを続けていました」という『月刊福吉』はやがてこれを見出した人により『筑豊に生きて』(日本キリスト教団出版局)として出版されます。ところが、この本を読んだ友人小柳伸顕氏より「なんで筑豊の人らが大阪弁しゃべるんや?『筑豊に生きて』るんは誰なんや」と問われ、犬養先生は、それまでの自分の筑豊の人びととの出会いが、自分の枠組みの中においてのみの理解であり、筑豊に住む人の語りや、その本当の声を聴いてはいなかったのではないかと考えるようになります。

人は自分の枠組みと言う限界を超えられない、その事実から再び出発し、だからこそ、形を持たない聖霊の働きは誰の所にも届くのだと信じて働きを続け、それは召されてゆく炭坑労働者やその家族たちの歩みを聞き書きした『弔旗』(1981年刊)にまとめられます。



こうした声を聴くことから犬養先生は「どこに立つのか」との問いの前に立たされることとなります。筑豊にはキリスト教会はありましたが、それらの教会が物理的な立地のみならず(例えば田川教会は当時「100円坂」と呼ばれる、管理職級の住宅街に建っていました)教会形成において、地域の課題を共有していたかということや、犬養先生は問い続けます。それは戦後すぐに大之浦炭坑に入り1948年に大之浦教会と保育園を建てた服部団次郎牧師の働きに学ぶことであり、またカネミ油症事件の被害に苦しむ紙野柳蔵さんの「人の苦しみを自分のものとするのでできないのであれば、こうした被害は必ずまた起こる」という言葉との出会いであり、また強制連行で全てを奪われた金鐘甲さんの尊厳を取り戻す戦いへの関わりであったと言います。

「奉仕の対象でなく、宣教の対象でもなく既に起こっているキリストの出来事に驚き、そこに教会がある」と言う先生の言葉に深く考えさせられました。わたしたちの教会はどこにどのようなものとして立つのか、今回の講演を宿題として受け止め来年の北九州訪問に備えたいと思います。

(文責：柳下明子)

日本聖書神学校創立 75 周年

日本聖書神学校は、終戦の翌年1946年に創設されて、今年2021年5月に創立75年を迎えました。

後援会では毎年5月にお祈りと献金によって日本聖書神学校をお支えくださっている信徒の皆様を神学校にお招きして創立記念の集いを開催して来ましたが、しかし残念ながらコロナウイルス感染症の世界的な蔓延と緊急事態宣

言下にあって、昨年と今年、二年続けて創立記念の集いの開催を断念せざるを得ませんでした。創立記念の集いこそ開催できませんでしたが神学校の歩みはその間も確実に前進して居り、今年節目の75周年を迎えることが出来ました。

日本聖書神学校の75年の歴史は、草創期に福音の宣教者を輩出するため

の神学校の必要性を切望された先生方の気概と祈り、それに続かれた多くの教授陣たちのひたむきな努力、そして神学校で学び宣教の現場へと送り出されて行った750名を越える伝道者、牧師の皆様、さらに日本聖書神学校を憶えて支え続けてくださった全国の教会と信徒の皆様のお祈りによって刻まれて来ました。

創立75周年の節目に、生きて働いてくださる主なる神様のお導きと恩寵を心から感謝いたします。

創立記念の集いは中止となりましたが奨学金の支給認定式は5月31日の神学校の礼拝の中で行いました。奨学金の支給認定式は、奨学金の原資、源泉は全国の教会そしてそこに所属するお一人お一人の祈りと願いがこもった貴い献金によるものであることを神学生にお伝えする大切な機会です。神学校に献金をして下さる方の多くは、見たこともない神学校、会ったこともない神学生のために、いつの日か支援した神学生が、福音の宣教者となることを期待してお捧げくださっている信仰に基づく貴い献金だということ奨学金の支給認定式で神学生にお伝えしています。

私は日本聖書神学校の後援会で奉仕させていただくようになって15年以上になります。それでも神学校の75

年の歴史からすると1/5程度の僅かな期間で、いかに日本聖書神学校の歴史が長く重いものであるかを、改めて感じさせられます。しかし日本聖書神学校の75年の歴史は決して順風満帆なものではなくその経営、運営の面ではむしろ困難の方が多く、それは黎明期から現在、そしてこれからも厳しい状況が続いて行くのは避けられないことと思われまます。そこでこの場をお借りしてお願いしたいと思ひますが福音宣教の伝道者を養成する日本聖書神学校の働きの大切さを憶えて引き続きお祈りいただきたいと思ひます。そして献金によってお支えいただきたいと心からお願いいたします。

創立75周年を記念して、理事・評議員、卒業生、後援会の皆様に御寄稿いただき記念文集を作成することが出来ました。それぞれの方の日本聖書神学校への思いと感謝、そして支え続けてくださる熱く温かい気持ちが伝わり、大変



勇気づけられました。すでにご覧いただいているかと思いますが、この記念文集を一人でも多くの方にご覧いただいて日本聖書神学校を後援する輪を広げていただければ幸いです。(記念文集は神学校にお問い合わせいただければお送りしますのでお申し付けください)

願わくは、主が立ててくださった日本聖書神学校が、これからも福音宣教の伝道者を養成するという、その目的と必要性を主によって認められて、御名を崇め、栄光を讃美し続けて行くことができますように。

(後援会長 菊池公平)

決算報告

当学校の同窓生および諸教会の皆様には日頃から日本聖書神学校のためにお祈りいただき、また学校運営のために多額の献金をお捧げ下さり感謝いたします。

皆様のお支えにより、2020年度も無事に学校運営をおこなうことができ、銀行への返済も予定通り行うことができました。コロナ禍の影響で学事関係が中止またはオンラインになり、光熱水費や交通費等の一般管理費は予算よりも少ない支出となりました。また、収益事業では施設設備使用料は前年比約1200万円の減少ですが、校舎賃貸料が約1600万円の収入増となりました。

法人全体の資産総額に対する負債総額の比率は前年度より若干是正しましたものの、なお30%超であります。収益事業の増収により比率は徐々に下がるものと考えています。

日本聖書神学校の運営が収益事業の収入に頼らざるを得ない状況には変わりはありません。なお、テナント貸している老朽化したビルについて、理事会では小委員会を設置して検討を続けております。

働きながら召命を受けて学ぶ学生のために、この目白の地で牧師養成という重責を担う日本聖書神学校が存続し

ていく必要があります。皆様の一層のご支援とお祈りをお願いいたします。(文責：西谷総務部長)

学校会計貸借対照表

2021年3月末			
資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金預金	54,127,710	短期借入金	18,660,000
未収入金	883,398	未払金	11,556,712
収益事業未収入	42,768,267	前受金	75,000
商品	556,094	授業料前受金	556,000
立替金	100,672	入学金前受金	230,000
固定資産		遊説設備前受金	80,000
有形固定資産		預り金	454,009
土地	140,831,000	仮受金	0
建物	445,177,817	固定負債	
建物付属設備	12,133,459	学校債	60,380,000
構築物	5,920,485	長期借入金	172,705,000
器具・備品	7,182,414	退職給与引当金	0
図書	129,657,506	長期未払金	0
特定資産			
学校債引当特定資産	61,612,267		
奨学金引当特定資産	27,220,500		
その他の固定資産		純資産の部	
電話加入権	32,000	基本金	1,071,265,904
収益事業元入金	162,062,840	翌年度繰越超過額	-245,696,196
資産の部合計	1,090,266,428	負債・純資産合計	1,090,266,428

学校会計資金収支計算書

2021年3月末			
収入の部		支出の部	
学生等納付金収入	7,275,020	人件費支出	41,035,074
手数料収入	190,200	教育研究経費支出	3,629,939
寄付金収入	2,058,806	管理経費支出	15,676,939
後援会寄付金収入	15,222,000	借入金等利息支出	2,316,189
補助活動・収益事業収入	20,603,000	借入金等返済支出	27,660,000
受取利息・配当金収入	9,800	備品支出	608,000
雑収入	346,833	図書支出	1,367,665
前受金収入	-293,000	資産運用支出	8,513
前期末収益事業未収入	70,779,105	前期末収益事業未収入支出	24,942,831
その他の収入	7,613,031	その他の支出	10,398,448
資金収入調整勘定	-975,094	資金支出調整勘定	-2,238,618
前年度繰越支払資金	56,702,989	次年度繰越支払資金	54,127,710
収入の部合計	179,532,690	支出の部合計	179,532,690

収益事業会計貸借対照表

2021年3月末			
資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金・預金	51,630,230	短期借入金	1,320,000
商品	1,286,401	未払金	1,065,773
未収入	0	前受金	3,960,000
繰延税金資産	1,898,393	預り金	227,022
		リース債務(1年以内)	0
		未払消費税	3,866,000
固定資産		法人税等充当金	21,117,100
土地	58,990,000	学校会計未払金	42,768,267
建物	210,901,051		
建物付属設備	14,653,361	固定負債	
構築物	6,420,554	長期借入金	2,080,000
器具および備品	4	預り保証金	209,800,000
リース資産	0	リース債務	0
電話加入権	40,000		
預かり保証金特定預金	63,804,892		
		純資産の部	
		収益事業元入金	162,062,840
		繰越利益剰余金	-38,642,116
資産の部合計	409,624,886	負債・資本の部合計	409,624,886

収益会計損益計算書

2021年3月末			
収入の部		支出の部	
店舗賃借料収入	77,640,000	人件費	9,487,058
施設設備利用料収入	16,388,332	一般管理費	9,983,507
校舎賃借料収入	47,520,000	租税公課	21,757,000
出版物売上	99,584	減価償却費	12,342,262
受取利息等収入	4,892	学校会計寄付金	16,470,000
雑収入	0	支払利息	14,160
		特別損失	4
		法人税等	20,944,325
		当期純利益	50,654,492
収入の部合計	141,652,808	支出の部合計	141,652,808

Diary 学事報告

2021年4月～8月

- 4月1日 学報(第166号)発行
- 4月5日 入学始業礼拝、説教「あなたがたに平和があるように」神保望校長。新入生13名(正科生5名、聴講生8名)入学。
- 4月5日 教授会(第1回)
- 4月6日 前期授業開始
- 4月9日 学生自治会総会
- 4月12日 理事会(第265回)
- 5月9日 創立記念日
- 5月10日 教授会(第2回)

- 5月17日 後援会役員会、献身志願者の集い準備会
- 5月18～20日 ペンテコステ立証祈禱会
- 5月28日 理事会(第266回)
- 5月31日 奨学金支給認定式
- 5月31日 創立75周年記念文集発行
- 6月7日 図書館運用委員会(書面)
- 6月8日 教授会(第3回)
- 6月8日 同窓会役員会
- 6月14日 実習教会牧師との懇談会
- 6月19日 オープンキャンパス(YouTube)
- 6月28日 理事会(第267回)
- 6月29日 評議員会(第218回)
- 7月5日 献身志願者の集い準備会
- 7月12日 同窓会全国支部長会議

- 7月18日 献身志願者の集い(オンライン)
- 7月21、26、28日 精神医学特講
- 7月21、26日 前期補講日
- 7月26日 献身志願者の集い準備会
- 7月27、28日 ワークショップ「自己理解と他者理解」講師：藤崎義宣先生
- 7月27～29日 前期試験日
- 7月30日 教授会(第4回)
- 7月30日 卒業論文中間発表会
- 8月17日 同窓会役員会
- 8月23日 卒業生研修会(講演「筑豊でイエスと出会う その1」犬養光博先生)、同窓会総会
- 8月30日 臨時教授会

個人消息

■ 神保望校長

- 4月10日 学生寮・新入寮生歓迎会出席
- 5月7日 東京教区・常置委員会出席(年数回)
- 6月20日 玉島教会牧師就任式出席
- 6月29日 日本基督教団新任教師オリエンテーション出席(A日程)
- 7月3日 中村彰牧師記念会出席
- 7月4日 越生教会礼拝で説教
- 7月12日 日本基督教団教師養成制度検討委員会との会合に出席
- 8月2日 日本基督教団新任教師オリエンテーション出席(B日程)
- 寮監としての業務を行い、また校長として理事会、評議員会、教授会、人事委員会、図書館運用委員会、後援会役員会、献身志願者準備委員会に出席
- その他適宜面接・人事相談・学生面接を担当して執務執行

■ 荒瀬牧彦教授

- 4月17日・7月24日 日本クリスチャンアカデミー共同研究「コロナ後の教会の可能性」座長
- 5月16日・6月20日 カンバーランド長老田園教会説教
- 6月3日 実践神学研究・教育協議会
- 6月19日 社会福祉法人ナオミの会評

議員会

- 6月20日 カンバーランド日本中会礼拝研修会講演「教会暦を学ぼう」
- 7月12日 日本基督教団教師養成制度検討委員会との懇談会出席
- 執筆『礼拝と音楽』189号(「教会は何を守り、だれを守るのか」)、『賛美歌工房歌集II』に24作(歌詞)収録
- カンバーランド長老あさひ教会代務者、NPO法人フレンドシップあさひカウンセラーとしての執務
- その他、カンバーランド長老日本中会運営委員・教職委員長・礼拝音楽小委員長・アジア宣教委員、日本聖書神学校理事・評議員・同窓会役員・キリスト教研究所所長、日本賛美歌学会運営委員、『礼拝と音楽』編集委員としての諸奉仕

■ 稲垣千世教授

- ひばりが丘教会牧師としての執務執行
- JBTS 図書館長としての執務執行

■ 菅原裕治教授

- 7月12日 日本基督教団教師養成制度検討委員会との懇談会出席
- 東京聖三一教会牧師としての執務執行
- 日本聖公会管区共通聖職試験委員会委員長を継続(2021年度春秋期試験を監修)
- 日本聖公会東京教区聖職試験委員会委

員長就任(2021年度試験を監修)

- 神学校評議員としての執務執行
- 古谷正仁教授
- 5月26～31日 心臓ペースメーカー取り換えのため入院
- 7月7日 青山学院大学相模原キャンパス礼拝説教
- 7月11日 相模原教会伝道師就任式司式
- 7月25日 田園江田教会牧師・牧師就任式司式
- 日本キリスト教団蒔田教会牧師としての執務執行
- 4～6月 神奈川教区総会副議長としての執務執行
- 7～8月 神奈川教区総会議長としての執務執行
- 神学校人事委員としての執務執行
- 社会福祉法人日本水上学園理事としての執務執行

■ 柳下明子教授/教務部長

- 4月1日 教務部長に就任
- 4月1日 日本基督教団番町教会主任担任教師として着任
- 7月12日 日本基督教団教師養成制度検討委員会との懇談会出席
- 他日本聖書神学校教務部長、理事、評議員、日本基督教団番町教会主任担任教師としての執務執行

キリスト教研究所紀要『聖書と神学』第32号刊行のお知らせ

本校キリスト教研究所の紀要『聖書と神学』第32号は、10月に発行予定です。今号の特集は「21世紀の聖書」としました。2017年、2018年と新しい日本語聖書の刊行が続き、私たちは改めて聖書を翻訳するとはどういうことかを考えさせられています。この機に、21世紀という時代において聖書をどう読むか、どう解釈するかを学び直したいと願っています。

「特集」には、菅原裕治「イスカリオテのユダ 別訳の意義」、細井茂徳「聖書の教会的な意義 ロバート・ジェンソンにおける聖書解釈の一考察」、深津容伸「文学としての聖書」、小林祥人「旧約聖書と21世紀 現代における解釈の可能性」を掲載予定です。「自由研究」のジャンルにも、意欲的な投稿がなされました。

本誌は、キリスト教研究所会員に頒布されます。「会員は日本聖書神学校の卒業生のうち、入会を希望する者。その他本研究の趣旨に賛同し、会員2名の推薦をえた者」です。本校総務部に入会希望をメール・郵便・ファックスでお伝えください。年会費千円は、紀要郵送時に同封されている郵便振替用紙で送金してください。(会員以外で購入希望の方には1,000円+郵送料でお頒けします。)

(キリスト教研究所所長 荒瀬牧彦)